

石教研専門部会 第二次研究協議会 事務職員部会レポート 構成

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 1. はじめに | P 2 |
| 2. 組織構成 | P 2 |
| 3. 研究主題（テーマ）と研究内容について | P 2 |
| (1) 研究主題 | P 2 |
| (2) 研究内容 | P 2 |
| 4. 1年間の取り組み報告 | P 3 |
| 【取り組み報告1】2014年度学校備え付け教材教具消耗品にかかわる調査 | P 3 |
| 【取り組み報告2】市配分予算に係る配分調整に関するとりくみ | P 7 |
| 【取り組み報告3】「領域実践交流シート」による実践交流 | P 9 |
| 5. 学校間連携の成果と課題 | P 8 |

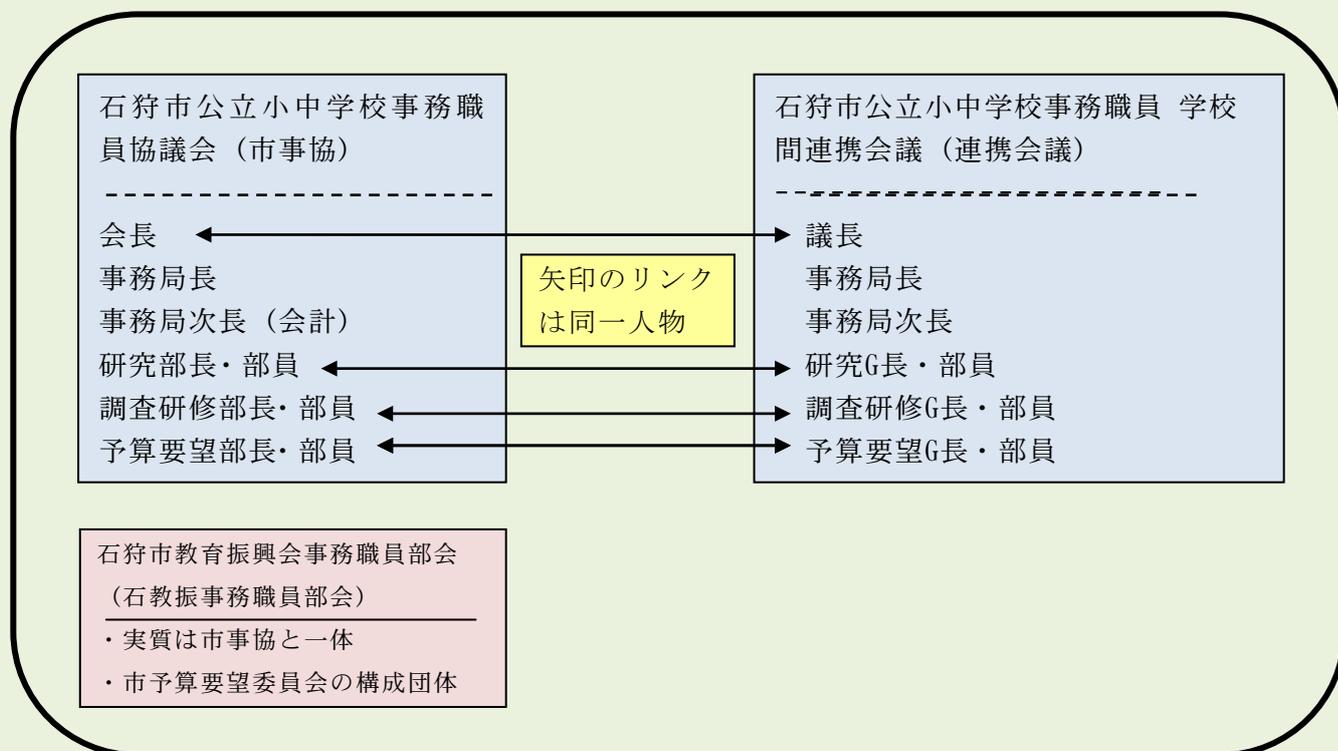
（資料）

| | |
|----------------------------|------|
| <資料1>過去の調査活動の経過 重点的な調査に関して | P 14 |
| <資料2>調査活動の分析にもとづく提言 | P 17 |
| <資料3>予算要望について | P 18 |
| <資料4>実践交流について | P 19 |

1. はじめに

今年度の石狩市のレポートは、昨年度の第二次研究協議会のレポートをベースに今年度の活動状況を加えて作り上げたものです。今年度の研究主題（テーマ）は次のとおりですが、実践課題の検証やとりくみの確認など研究活動の大半は学校間連携のとりくみをとおして行われています。

2. 組織構成



3. 研究主題（テーマ）と研究内容について

（1）研究主題

子どもの学習権を保障する創造的学校の展開 ～ 「学校間連携」のとりくみをとおして ～

（2）研究内容

各部（研究・調査研修・予算要望）で研究主題に沿った研究内容を立案の上、活動しています。（活動内容の詳細は、紙面の関係上、割愛させていただきます。（石狩管内公立小中学校事務職員協議会広報紙「輪」第3号H27.7.15を参照願います。））

4. これまでの活動状況

（1）定例会・連携会議の開催状況

石狩市公立小中学校事務職員学校間連携会議（連携会議）は、石狩市公立小中学校事務職員協議会（市事協）の定例会（そのうちの一部は石狩教育振興会学校事務部会として開催）の設定日に合わせて開催しています。（一般に会議日の前半は定例会、後半は連携会議）

市事協の定例会では主に対外機関（市教委、石事協等）や各部（研究・調査研修・予算要望）からの連絡・報告事項の確認や事例交流等を行い、その後の連携会議では連携会議事務局で検討を進めたい事項に関わる調査・分析を行っています。**実践課題の検証やとりくみの確認など研究活動の大半は学校間連携のとりくみをとおして行われているため以下からは連携会議に関わるとりくみを紹介します。**

（2）連携会議の活動の柱

連携会議の活動の柱は、以下の4点（①～④）です。

連携会議 活動の柱

①学校財政と学校事務の状況調査

→実態を分析することで課題を掘り起し、具体的改善を探る活動。

②調査活動の分析にもとづく提言

→1年間の調査活動にもとづき、課題解決の方法や考え方に対する連携会議としての見解をまとめて発表する活動。

③予算要望

→石教振事務部会の委託業務として予算要望に関わる活動。

④実践交流

→連携会議の活動を市事協の研修活動とリンクさせ、学校事務の職務確立に資する活動。

活動の柱の具体的とりくみについては、資料1～4で概要を説明しているのでご覧になってください。

5. 1年間の取り組み報告

【取り組み報告1】2014年度学校備え付け教材教具消耗品にかかわる調査（追加調査含む）

ア) 保護者負担軽減調査に係わって夏季研（2014/7/25）で交流を行いました。生振小学校の発表から「ものさし」を学校備え付けとした経緯の報告があり、その中で、授業で扱う時間が2時間程度等、使用する時間が非常に短期間である教材について学校備え付けとして市教委へ要望していく方法や教員に調査していく方法もあるのではないかとの意見がありました。それを受けて第58回の連携会議において研究部より学校備え付け教材についての交流を行いました。交流結果として、まずは研究部において小学校・中学校の種別を問わず「アイデア募集」を行い冬季研において交流するという事になりました。

イ) 取り組みの経過

◆調査について

学校備え付けが望ましい教材教具をリストアップし、石狩市として重点的に整備すべき教材教具を決め、各校それらの物品の公費化へ繋げていくこととなりました。かつて石狩市では氏名ゴム印を重点的に公費化していきましたが、そのイメージでどのような教材教具を「学校に備え付けの教材教具」として重点化していくかということ各人の今までの経験を交えながら調査・交流を行いました。調査内容は以下の通りです。

- ①今までのキャリアの中で、保護者負担に委ねられてきた教材教具消耗品で、公費で購入し学校備え付けとした教材はありますか？
- ②今後学校備え付けとして、公費で購入したい教材、又は、購入して欲しいと教員より要望されている教材はありますか？
- ③学校備え付け教材として考えられる教材や、その他保護者負担軽減のアイデアがありましたら記入して下さい。
- ④石狩市として、保護者負担になっているどのような教材を重点的に学校備え付けとして公費購入したらいいと思いますか。

◆調査結果の概要

- ①「今までに学校備え付けとした教材」では、小学校でのこぎり等の図工関係教具や竹ものさし、画用紙や半紙等の紙類など。その反面中学校では少ないことがわかった。
- ②今後学校備え付けとして公費で購入したい教材や教員より要望されている教材」では、図工関係の版画ノコ、ナイフ、カッターや、美術での切り出しナイフと木工ヤリが見られた。尚、のこぎり

り、ホーター、ダンボールカッターの3品目については後日各校へ保有に係る再調査を行ったが、予想以上に既に学校備え付けとなっていることが分かった。

- ③「その他の学校備え付け教材として考えられる教材や、その他保護者負担軽減のアイデア」で一覧表以外では、「A小でもスキーリサイクルを行ったことがあるが、学校に残ってしまうものの処分のこともあり、やめてしまった。又、D小でもPTAでスキーを500円で販売し、売り上げはPTA特別会計に入金していたがやめてしまった。」「E中では制服のリサイクルも行ってた。」「算数セットを使わなくなった後に親から寄贈してもらう方法もあるのでは。」など興味深い話が聞けた。
- ④「石狩市としてどのような教材を重点的に学校備え付けとして公費購入したらいいと思うか。」については「石狩市で主だった教材をピックアップし、各校に調査を行い、所有している学校が多い教材については要望が多い・整備していきやすいと判断し、重点にしていってはどうか」や「中学校では、進路指導費のうち、まず事務用品を次いで郵券料を、もし旅費が使われていれば旅費を公費化する。」「絵の具セットのパレットや筆は、卒業生からの寄付や公費購入で揃えていく。裁縫セットも同じようにできないか。」「まずは算数セットから始めよう。」、又、「教材教具に限らず、少なくとも氏名印のように学校都合の物品を保護者負担での購入にたよっているものなどは公費負担を急ぐべきではないか」という意見も出されました。

◆成果と課題

現時点では途中経過であり、石狩市の学校備え付けとして重点的に整備すべき教材教具はまとまっていません。中学校で取り組める教材教具が少ないなど課題も生じていますが、今後検討・議論していきたいと思えます。

| 2014年度学校備え付け教材教具消耗品にかかわる調査 | | | | | | 2014.12.26 |
|--|---------|------------------|-------|-----|-----|--|
| ※設問1, 2については今までの学校での実践・取組や、どのような物品が備え付けの教材教具の対象となるか又、教員の要望等で、交流しながら学び合うために調査します。 | | | | | | |
| 設問1, 今までに、保護者負担に委ねられてきた教材教具消耗品で、公費で購入し学校備え付けとした教材は ありますか？(今までのキャリアで) | | | | | | |
| 学校名 | 年度 | 購入物品名 | 単価 | 個数 | 実施地 | 備考(経緯等) |
| A小学校 | | 特にありません | | | | |
| B小学校 | H18年度以降 | 辞典(国語) | 2,000 | 725 | 石狩市 | 図書配分で計画的に、現在???以上全クラス |
| B小学校 | わすれました | ものさし(竹) 30cm | | 40 | 石狩市 | 算数授業活用のため(持ち回り使用) |
| C小学校 | H24~25 | ホビーソー(のこぎり) | 940 | 16 | 石狩市 | 今までは家庭から持って来させていたが、無い家庭も多く学習時間も少ないので、学校で購入出来ないだろうかという、教員からの要望。 |
| C小学校 | H24~25 | かなづち | 470 | 16 | 石狩市 | 同上 |
| C小学校 | H24~25 | きり | 140 | 16 | 石狩市 | 同上 |
| C小学校 | H26年度 | 竹ものさし | 130 | 15 | 石狩市 | 同上 |
| D小学校 | H15年度 | 画用紙(4つ切り) | 1,200 | 27 | 留萌市 | 教材費で集めている学級、学校のものを持っていく学級とバラバラな対応だったので学校で購入し、職員室に備え置き使用簿を作成し一括管理とした。 |
| D小学校 | ? | 画用紙(8つ切り) | 900 | 28 | 留萌市 | 同上 |
| D小学校 | H21年度 | フラットファイル・クリアファイル | | | 石狩市 | 学校に常備しておき、持ち出しは自由にした。 |
| D小学校 | H21年度 | フラットファイル A5S | 58 | 30 | 石狩市 | 修学旅行、宿泊学習しおり用。紙代を含めて徴収していたが学校負担とした。以前勤務した学校で、会計監査の時(就学援助関係)、紙の枚数が割り切れないと…。みたいなことを言われていたので消耗品類をすべて公費で持つようにした。 |
| D小学校 | H25年度 | 氏名ゴム印 | 140 | 10 | 石狩市 | 入学時の諸費から集めていたが、学校で保管、廃棄する形で公費負担となった。 |
| D小学校 | H26年度 | 竹ものさし | 130 | 20 | 石狩市 | 学校でしか使わないので、常備することとした。 |
| D小学校 | H26年度 | (算数セットの中の)時計 | 280 | 20 | 石狩市 | 本校は算数セットは購入していない。時計も…。で使用していたが、公費で購入し常備とした。 |
| D小学校 | H26年度 | カッターナイフ | 130 | 20 | 石狩市 | 家から持参してなくても済むよう学校で常備することとした。 |
| D小学校 | H26年度 | ライフソー(のこぎり) | 1,447 | 5 | 石狩市 | 家庭にのこぎりのない家も多く、児童数も少なくなったので学校備付でも良いのではないかという、教員からの要望。 |
| E小学校 | H24年度 | ホビーソー(のこぎり) | 1,250 | 20 | 石狩市 | 今までのこぎりは家庭から持って来させていたが、のこぎりがない家庭も多く、学習時間も少ないので、学校で購入出来ないだろうかという、教員からの要望。 |

| | | | | | | |
|-------|--------------|------------------------------|---------|-----|------|--|
| E小学校 | H21年度orH22年度 | 理科教材（電気の授業用教材（くるま）用の電池（単1？）） | 100？ | 20？ | 日高管内 | 記憶が定かではないが、理科教材（電気の授業用教材（くるま）は学校にあったか保護者を買わせていたか忘れたが、電池がなく学校があればよいので購入して欲しい。毎年該当学年で使用し、使用時間も少ないため電池の消耗も少ないだろうと聞き購入した。予算の極めて少ない学校で電池購入も困難だったので印象に残っている。 |
| F小学校 | H25年度 | ものさし（竹尺） | 198 | 4 | 石狩市 | ものさしは、使う学年が決まっているため。 |
| F小学校 | | 鍵盤ハーモニカ | | | | 以前から、学校備え付けになっており、吹口のみ保護者負担で購入している。 |
| G小中学校 | | 特にありません | | | | |
| H中学校 | 2013(H25) | 書道の半紙 | | | 石狩市 | 1年生一人250円集めていたが、全部公費化して、3万円程度の予算化 |
| H中学校 | 2014(H26) | 成績ファイル | 220 | | 石狩市 | 通知表や得点通知表を入れるファイル。1年次に購入し、3年間使う。事務用品なので全額公費化 |
| I中学校 | たぶんH24 | 半紙、墨汁 | 15000程度 | ？ | 石狩市 | 担当者が内々に個別に用意させていたものを、全額公費化とした。 |
| J中学校 | | 特にありません | | | | |

設問2. 今後学校備え付けとして、公費で購入したい教材、又は、購入して欲しいと教員より要望されている教材はありますか？

| 学校名 | 事務or教員 | 購入物品名 | 単価 | 個数 | 備考（経緯等） |
|-------|--------|--|--------|-------|---|
| A小学校 | | ありません | | | |
| B小学校 | 事務 | 版画インク（12本入り） | 16,200 | 1 | 要望があれば予算との兼ね合い。 |
| B小学校 | 事務 | 版画用ゴムローラー（6本組） | 15,600 | 1 | 要望があれば予算との兼ね合い。 |
| B小学校 | 事務 | 彫刻刀（5本組） | 640 | 40 | 要望があれば予算との兼ね合いを考え、計画的に考えている。 |
| C小学校 | 教員 | 切り出しナイフ | 300 | 20 | 3年生図工で必要。（右手用15本、左手用5本） |
| C小学校 | 教員 | ダンボールカッター | 350 | 16 | 4年生図工で必要。 |
| D小学校 | | 年度ごとに希望をとってその都度対応しています。先生が変わると意外と意見が出てきます。 | | | |
| E小学校 | 教員 | なるこ（よさこい） | 300円程度 | 30ヶ程度 | 前任校の話～運動会で該当学年でよさこいを踊る学校だった。なるこキット（無地）に図工等で子ども達に色・ニス等を塗らせ、本番の運動会で使うという流れで徴収金で購入していたらしい。「学校になることがあったら作成する時間やお金の負担少なくて済むし。どうせ練習と本番にしか使わないわけだし。」という話が炉辺談話で聞こえて来たが予算の極めて少ない学校であったため聞こえないふりをした（良くない例）。 |
| F小学校 | | ありません | | | |
| G小中学校 | | 特にありません | | | |
| H中学校 | 両方 | 美術の切り出しナイフと木エヤスリ | | | ナイフとやすりを3年間で40本ずつ整備のため、年4～5万円の予算を用意 |
| I中学校 | | 特にありません | | | |
| J中学校 | | 特にありません | | | |

設問3. 設問1,2以外で学校備え付け教材として考えられる教材や、その他保護者負担軽減のアイデアがありましたら記入して下さい。

| 学校名 | 種別 | 意見等 |
|-------|-----|--|
| 石狩小学校 | | ありません |
| 南線小学校 | | ありません |
| 生振小学校 | 小学校 | あさがおセットの鉢の公費化。そろばん。 |
| 八幡小学校 | 小学校 | 探検バッグ～貸出制にしては。基本的に割り切れないものは学校で出すようにした～版画用のインク、のりほか |

| | | |
|--|---|--|
| 花川南小学校 | 小学校 | ・なるこ(よさこい踊る学校?) (江別)、おはじきセット(@250円) (江別)、(・2年ミトマセット(@270円) (江別)、・3年風やゴムの働き(@170円) (江別)、・4年電気の働きA型(@340円) (江別)、・5年電流と電磁石(@450円) (江別)、あゆみの家庭連絡用ファイル江別の資料より児童数57名) (江別)、フラットファイル、アナログ式時計模型人数分(江別)、電卓人数分(江別)、紅白帽子を安価なものに(@490円→340円) (江別)、 |
| | 中学校 | ・理科実験用ゴーグル人数分(江別)、給食のお盆の公費化(3年計画(@800円)) (江別)、 |
| 望来小 | | ありません |
| 聚富小中 | 小学校 | 小規模校ならではとなるかも知れませんが、スキーの用具で昨シーズンのもを無償でスキー場のレンタルから譲り受けてはどうだろうか？ |
| 聚富小中 | 中学校 | 卒業アルバムの自校制作(パソコンもあるので・・・自分ではできませんが・・・) |
| 花川中学校 | 小学校 | 算数セットは、セットの中の好きなものを使えばいいように指導している教員もいるようです。その場合、保護者から使わないものも買うのですか？と訊かれることがあるらしい。 |
| 花川中学校 | 中学校 | 技術科菜園の苗や種は、JAと提携して地産地消PR活動などとジョイントし、ただで提供してもらう。とれた野菜は家庭科実習でも使い、材料費の減額に結びつける。 |
| 花川南中学校 | | ありません |
| 浜益中学校 | | ありません |
| 設問4、石狩市として、保護者負担になっているどのような教材を重点的に学校備え付けとして公費購入したらいいと思いますか。物品名・方法その他ご意見等ありましたら記入して下さい。 | | |
| 学校名 | 意見等 | |
| 石狩小学校 | ありません | |
| 南線小学校 | 図工：画用紙、版画用紙等(評価項目であり、個人負担はおかしい)、生活科(1年生)：たんけんバック | |
| 生振小学校 | ありません | |
| 八幡小学校 | 例に出ているやり方がよいと思う。が、全校から集めているときりがないので、まず数校から集めてそれを基に他校からも集めていけばよいかと思う。 | |
| 花川南小学校 | ・石狩市で主だった教材をピックアップし、各校に調査を行い、所有している学校が多い教材については重点にしていってはどうか。・氏名印を公費化して行こうということになって成果が出てきているが、教材教具の重点的備え付けについても氏名印の時のように事務用品を保護者負担してはいけない、というような理由づけがあると良いのでは。 | |
| 望来小 | ありません | |
| 聚富小中 | 今のところアイデアが出てきません。 | |
| 花川中学校 | ①中学校では、進路指導費のうち、まず事務用品を次いで郵券料を、もし旅費が使われていれば旅費を公費化する。 ②絵の具セットのパレットや筆は、卒業生からの寄付や公費購入で揃えていく。 ③裁縫セットも同じようにできないか。 ④算数セットから始めよう。 | |
| 花川南中学校 | 保護者負担軽減に向けて、とりあえず、ライバルである？現金ご都合主義の担当教員と如何に対峙するか？(教育課程の熟知、熟慮、精査、論破？、人間関係？、目配り、気配り？シム職員のやる気？ etc) | |
| 浜益中学校 | ありません | |

【取り組み報告2】市配分予算に係る配分調整に関するとりくみ

ア) 石狩市の学校配分予算は、2015年度分から各校の配分調整にもとづき配分することが一部可能になりました。

配分調整とは・・・これまで、市教委が一定の基準にもとづき機械的に配分していた学校予算を、配分総額が変わらない範囲内において学校の計画に基づいて節・細節の額を調整できるようにしたもの。

イ) 取り組みの経過

i きっかけ

- ◆伏線として、予算要望の仕方として、重点要求の方が実現可能性が高いのか、増額が望めないのだから要望事項を網羅するのがいいのかという大きな議論があった。
- ◆郵券代が不足している学校に、「現物を分けようか」という提案があったことから、消耗品

費とか食料費、あるいは修繕料を減額して郵券料を増やしてもらうことが可能かどうか市教委に確認。

- ◆「これまでも役務費の増額については、柔道着のクリーニングなどの状況もあり、市教委として増額を要望しているが、最終段階付近で切られてしまう」という市教委の認識。
- ◆「款項目節の予算枠の縛りがあって、市教委段階でも予算の枠組みの変更はできない」という見解。他の学校から配分額を分けてもらうという方法可能との認識。（つまり、A 校の郵券料を1 万円増やしてそのかわりB 校の郵券料を1 万円減らす、或いはB・C・D・E 校を2,500 円ずつ減らすといった方法）

ii 連携会議での検討

- ◆機械的に配分されていた学校予算を、学校事情に応じてメリハリを付ける。例えば、市内でカーテンクリーニングの重点校を決めて、そこにクリーニング料を重点配分する様なこと。その結果、市の財政当局段階で、学校の要望に基づき、款項目節の比率を変えられるとよい。
- ◆各学校（小中別）が、増やしたい予算と減らしてもよい予算を申告して、事務局が調整し、市教委に提出、市教委でそれに沿った配分をする。（市教委としては、積算基礎どおりの配分にならないとしても学校の要望に添っていることで説明がつくということのよう）

iii 具体的作業

- ◆各学校が、下記の表で配分調整を行い、連携会議（市事協）で集約し市教委に提出

記入例

学校配分予算を見つめなおしていませんか？の調査

学校名 _____

どちらかに○をつけてください。

学校配分予算の変更を希望します。 学校配分予算は現状で。（変更しません）

| 今年度（平成26年度）配分予算 | | | 次年度（平成27年度）希望 | | |
|-----------------|-------|-----------|---------------|-------|-----------|
| 節 | 細節 | 金額 | 節 | 細節 | 金額 |
| 需要費 | 消耗品費 | 1,219,000 | 需要費 | 消耗品費 | 1,219,000 |
| | 印刷製本費 | 57,000 | | 印刷製本費 | 37,000 |
| | 食糧費 | 15,000 | | 食糧費 | 5,000 |
| | 備品修繕料 | 53,000 | | 備品修繕料 | 53,000 |
| 役務費 | 通信運搬費 | 42,000 | 役務費 | 通信運搬費 | 62,000 |
| | 手数料 | 14,000 | | 手数料 | 24,000 |
| 備品購入費 | 庁用器具費 | 123,000 | 備品購入費 | 庁用器具費 | 123,000 |
| 合 計 | | 1,523,000 | 合 計 | | 1,523,000 |

増額や減額の理由をお書きください。（できるだけ詳しく）現状維持もなぜ現状でいいのか教えてください。

本校は、印刷製本費については「学校運営計画」と「研修のまとめ」のみの印刷しかないので2万円の減、食糧費も前3年の支出が5,000円程度なので削減し、PTA会費より補填している通信運搬費、カーテンクリーニングを計画しているため手数料を増額しました。

- ◆取り組みにあたって確認したこと
 - ・あくまで、増額要望が基本であること。
 - ・増額が極めて困難な現状の中で、予算の効果的執行を図るための手法であること。
 - ・配分比率の変更を求める学校が1～2校など少数であった場合の扱いなど、アンケート集計結果について全体で確認する場を設けること。
 - ・回答のない学校には電話で意向を確認すること。

イ) 成果と課題

- ◆取り組みの反省の観点

- ・配分調整を行うことで、当面无駄のない予算編成と執行となったか。
- ・総額として減少し続ける配分予算に対し、どのような要望をしていくことがいいのか。
- ・一連の取り組みを「提言 16 学校配分予算の調整について」としてまとめました。

提言 16 学校配分予算の調整について

提言内容

1. 学校配分予算の調整について、当分の間、学校配分予算の効率的執行のため実施するよう教育委員会として検討すること。
2. 各学校は、学校配分予算の調整について適切に実施できるよう、学校財政に関する調査・分析活動を充実させること。

説明

第 49 回連携会議（2014/2/21）の際に郵券代とクリーニング代が不足している現状について交流・論議を行いました。その内容は、①郵券代やクリーニング料などの役務費については、学校によって過不足の度合いが異なっていること、②しかし、学校配分額はこれらの事情について考慮されておらず、過去の配分実績に基づき配分されていること、③節間流用を希望する声も多いが、財務規則の変更を要するなどハードルが高いこと、④学校配分総額を変えずに、節毎の金額を変更できれば、当面効果的執行が可能になること、などです。

この交流・論議を受け連携会議は、「日刊連携会議No.111」で「学校配分予算の調整」について提起するとともに、第 50 回連携会議で、

- ア) 上記④の方法が今後の学校予算にとってメリットがあるのかどうか
イ) ④の方法を模索する場合、具体的にどう進めるか

について検討を行いました。この段階では、多くの学校より「比較的予算に余裕がある食料費や印刷製本費あるいは修繕料を減額して郵券料を増やすことが可能になることで、より効果的で無駄のない執行が可能となる」との意見があったものの、「4 月当初においての学校間の調整は難しいのではないかと」の意見あり。次年度の連携会議において例年より詳しく決算書の交流を行う。各校の調整して欲しい項目を確認した上で、調整が可能か可能性を探っていくため、時間をかけて教育委員会と意見交換を進めるという結論に達しました。

一方、予算要望グループでは、「教育予算要望書 要望事項用紙」を集約し「現在の学校配分予算の在り方」等について夏季研（2014/7/25）において交流を行いました。やはり、予算の増額や細節間流用を望む声が多い結果となりました。

このような経過を受け、9 月には教育委員会から「効果的な予算執行のために市教委から財政課へ各学校の考え方を提案する」との提案があり、連携会議側は、需用費・役務費・備品購入費の範囲で増減が可能な項目について過去の実績や次年度の必要性などある程度明確な理由を示す事で各校ごとに学校配分予算の変更について調査を行う事とし「日刊連携会議No.114」において課題整理を行いつつ、配分調整額について各校から具体的数字をあげてもらいました。その結果、21 校中 19 校が予算変更を希望し金額を指定しました。今後教育委員会と財政当局の協議を経て学校配分額が決定されることとなる予定です。

「学校配分予算の調整」は、配分予算増が困難な状況下での次善の策であり、本来は不足する財源の増額が重要であることはいまでもありません。しかし、各学校が学校課題の改善や学校目標達成のために、現に配分されている予算を効率的・効果的に執行するため予算計画を策定することは、学校財政財務活動の重点的業務です。従って、予算担当者である事務職員には、これまで以上に学校予算に計画性と責任が必要になると思われ、校内予算計画算定のための調査・分析活動をさらに充実させることが必要です。

【取り組み報告 3】「領域実践交流シート」による実践交流

ア) 石狩市では本年度（2015）の石事協の研究を受け、日常実践の更なる充実を図る事を目的とし、従前より行ってきた「領域実践交流シート」の作成、交流に努めることとしました。具体的には、市内研究部が中心となり、毎回の連携会議において、財政財務、教育情報活動、特に保護者負担軽減を主体とした各学校の日常実践のとりくみを発表してもらい、交流などを

図っています。

イ) 取り組みの経過

i 領域実践交流シートとは

- ◆領域実践をすすめようと言われてますが、どんな取り組みが領域実践なのか分からないという声も昔から聞こえています。そこで、まずは小さな取り組みを交流することで、少しでも領域実践に迫ることができないかという考えから、定型書式に取り組みをまとめることで交流をしやすくしようというものです。
- ◆全道的にもいくつかの地区で取り組まれています、メジャーな取り組みではありません。

ii 連携会議でこれまで拘留されたシートは以下の通りです。

- ◆校内配分予算に係わって（2件） 2009年7月
- ◆強化用消耗品費の執行に係わって（市外より投稿） 2009年10月
- ◆教材備品購入計画の立案について（市外より投稿） 2009年10月
- ◆PTA会費見直しへの関わり 2010年1月
- ◆自己目標シートを通した二本立て運営計画 2010年2月
- ◆生徒会会計見直しへの関わり 2011年5月
- ◆校内予算編成の改善 2011年11月
- ◆修繕費を通して備品の活用状況を検証 2015年7月
- ◆学校諸費の見直し（保護者負担軽減・公費化） 2015年7月
- ◆学級費全額公費化 2015年7月
- ◆児童氏名印公費化 2015年7月

今回は、学級費全額公費化と児童氏名印公費化のとりくみを発表します。

ウ) 成果と課題

- ◆一時期交流が途絶えていた領域実践交流シートが近年復活し、各学校での取り組みが可視化されることで、他校にもよい刺激を与えていると考えられます。
- ◆シートの作成を義務化してしまうと辛くなるので、息の長い取り組みにしていきたいと考えます。
- ◆過去のシートは連携会議HPにアップされていますので、是非ご覧になってください。

領域実践交流シート

石狩市立花川南中学校 加藤裕之 2015/7/9

| | |
|-------------------|---|
| 見つかった課題 | <p>校内における保護者負担軽減に向けたとりくみを赴任当時から行い、職員の理解を得て、徴収金額の減額が少しずつ図られてきた。</p> <p>そんな中、積算根拠や使用も曖昧であり、個人的にも気になっていた保護者徴収による「学年学級費（年間生徒一人180円）」を何とか全額公費負担にしたいと思い、以下の経緯でとりくみを行ってみた。</p> |
| 課題解決に向けた行動の経過 | <p>学年学級費は口座振替で徴収後、その扱いは各学年学級担当者に全て任せていた。支出内容は内々には聞いていたが、全額公費負担にすべく、昨年度、敢えて業務負担増を承知で、支払い、経理決算担当を行い、改めて内容を確認してみた。</p> |
| 行動する上で見えたこと | <p>担当者から請求書、及び領収書などを回収し、内容を確認していくと、公費でまとめて購入した方が安価で済む、得点通知表封筒、ファイル、各学年学級独自の事務用品、活動費などが主な内容であった。担当者からよくよく話を聞くと、「購入など自由でやり易い面はあるけれど、共通したものは、教務なり事務で購入、配分し、担当（窓口一本化）してほしい」などの声があった。</p> <p>「学年のものは学年で・・・」など、従前の取り決めや慣例により、本校はそのように取り扱っていたようであるが、職員の入替わりと共に、意識も変わり、より効率的で効果的な方法を・・・と望む声も多くなっていた。</p> <p>その後、年度末反省で各々意見を述べてもらい、担当である各学年はもとより、教務部、生徒指導部のチーフと協議を重ねた。</p> |
| とりくみの結果、なにがどうなったか | <p>別紙の通り。「学年学級費」は廃止、全額公費負担とし、併せて新年度配分予算にて、「学級費（一律8千円）」という項目を設けた。</p> <p>生徒名札（Pケース）についても、現金徴収をやめ、公費負担化。</p> <p>また、保護者徴収による「生徒会費」で購入していた市販の「生徒手帳」についても見直しを図り、生徒指導部が主となって、「身分証明書」に変更、作成することにより、更なる減額（300円）に努めることができた。</p> <p>※生徒手帳に記載されていた内容は一部精選し印刷。</p> <p>公費で購入、配布した生徒個人Fファイルにてとじ込み、学級保管。</p> |
| とりくみの感想など | <p>今回の決定に至るまで、全てがスムーズに行えたわけではない。</p> <p>現金都合や一部購入に係る公費購入での不自由さなどの意見もあり、不満も少なからずあった。数年経て、若しくは次年度、職員も入れ替わり、意識が変われば、また復活するかもしれない。しかし、論議過程の中で一番の収穫であったのは、指導の都合ばかりでなく、「保護者負担軽減」の意見を述べる職員が増えてきたことである。各職員においては、本校でのこのとりくみ、内容などを次校に生かしてもらえたら幸いである。</p> <p>当然、学校教育予算に携わる事務職員は、職員と十分に連携を図り、指導上の配慮は勿論の事、公費負担に即した校内予算の更なる検討を図らなければならない。</p> <p>最後に・・・理解ある、してもらった？本校職員に心より感謝！！</p> |

領域実践交流シート（児童氏名印の公費負担の取組）

学校名【石狩市立花川南小学校】 記入者【品川龍平】 作成日【2014/7/25】

| | |
|-----------------|---|
| 見つかった課題 | <p>新1年生の氏名ゴム印の保護者負担から公費負担（市経理負担）とすること。石狩市連携会議で多くの小学校が公費負担をしているのを 2011（H23）年度赴任時より聞いていました。氏名印という物品の性格としても公費負担が望ましいと思いました。問題となる財源ですが、H23 年度末、H24 年度末の市経理残金から公費負担出来ると判断しましてH26 年度当初に向けて準備していきました。</p> <p>又、もう一つの公費負担するべきだと思った理由は名字変わり（離婚等）や転入での購入（サイズが合わない等）が何件もあり、なかなか私費負担での理解が得られにくく、公費で購入する場合も出てきました。入学時での私費購入と中途購入との整合性がなくなって来たことも児童氏名印公費負担をしようと思った理由です。</p> |
| 課題解決に向けた行動の経過 | <p>新1年生関係の提案が教務部より 10 月職員会議に提案される。その中で入学時に購入される学用品の内訳や単価等の説明がなされる。従ってそれ以前に担当者へ氏名ゴム印を公費負担へと変更するよう伝えた方がスムーズに行くということは前年度（H24 年度）より考えていました。職員会議では特に意見はでなかった。</p> |
| 行動する上でみえたこと。 | <p>公費負担するということは財源が必要で、どの程度の負担となるかを計算する必要があります。それ以前はA社 1 個 160 円（税込）の氏名ゴム印を使っていたが、石狩市学校間連携会議の調査で 1 個 120 円（税込）で購入している学校があることがわかり、その業者名を聞いてB社へ単価を聞いてみたところ 1 個 120 円であった。よって安価な業者への発注することとしました。又、本校の新1年生児童数はここ数年 100 名弱といったところなので 12,000 円程度の財源が必要となります。</p> <p>これには市経理での余裕さ加減が必要だが、H23 年度・24 年度での印象では出来ると判断しました。</p> |
| とりくみの結果何がどうなったか | <p>目的どおり新1年生の氏名ゴム印の保護者負担から公費負担（市経理負担）となったが、職員会議では保護者負担には触れられなかったため教員への啓蒙という面では不十分であった。</p> |
| とりくみの感想など | <p>市経理の負担金額も増え・仕事も増えるというのは避けたいところです。今まで氏名印の発注は教務担当者であったので、印影の作成・発注などは引き続き担当者で責任をもって行ってもらい、支払いだけは事務でやりますというスタンスがよいと思います。チェックや発注時期の指示などはこちらで行う様にしたら良いと思います。</p> |

6. 学校間連携の成果と課題

（1）成果

- ◆石狩の連携会議も 9 年目に入りました。年間スケジュールが概ね定着してきており、活動計画を立てやすくなってきています。ホームページに過去の議案や資料が整理され、取り組み経過についても確認しやすくなっています。
- ◆夏季・冬季研修会を開催（主催は市事協）し、集中論議の場として成果を上げています。
- ◆毎年二次集会で発表できるネタがあるということは、それなりの活動ができているのかなと考えています。

（2）課題

- ◆組織面についてですが、連携会議と協議会の違いや役割分担が分からない、という意見が度々出ます。このことについては、どちらの組織も両組織の活動を自分の活動として発表して良い、という確認のもと進めていますが、異動してきた方にはわかりにくいかもしれません。しかし、歴代協議会事務局長はいずれもその責任感から積極的に活動していただいています。連携会議との連携を重視しているからこそ、課題解決や研究が進むという実態があります。これからも、市事協と連携会議は不可分の関係を保っていくことが重要です。
- ◆近年は、市教委との協議の場に連携会議も参加することが多くなり、その結果、配分調整のような大きな動きも実現しました。これまで、連携会議は業務であり要望主体とはなり得ないとの立場を取ってきましたが、現在の状況を前進ととらえることは必要と考えられます。
- ◆連携会議の活動を進めるほど、学校課題が次から次へと見えてきます。日常業務も多忙化しており、バランスを保ちながら進めることが重要です。
- ◆事務局校に加配が継続されることが重要ですが、人事異動による活動の停滞が起きないように、行政への働きかけも継続していくことが重要です。

＜資料 1＞過去の調査活動の経過 重点的な調査に関して

（1）校内配分決算と校内配分予算状況調査

◆取り組み経過等

- ・市配当予算の校内再配分とその決算報告は、学校の現状や担当する事務職員の経験や考え方に大きく左右される面もあり、定期的に交流し他校のとりくみに学ぶことが重要。
- ・HP に収集資料を掲載し、夏季・冬季研修会（主催：石狩市公立小中学校事務職員協議会）で交流
- ・最近の検討結果では「予算決算は単に数字を並べるだけではなく、数字の根拠や決算増減の原因について職場内の共通理解をはかり、予算を全体のものとしていく工夫やとりくみが重要である」との結論に達する。
- ・その見解は「2011 年度提言 1 1 学校予算の提案について」として公表。
- ・2013 年度冬期研修会においては、「配分予算と学校徴収金などの市費会計との相関関係を資料化すること」（公費と市費のバランスシート）について論議された。

◆見えてきた課題

- ・学校配当の決算予算に説明書きが少ない（あるいは口頭での説明されることが多い）ため増減の理由などがつかみにくく、次年度に反映されにくい。
- ・事務職員としては、学校運営に関わる全ての財源を把握（全てを担当するという意味ではない）し、その全体像を職員に提示することが大切ではないか。

（2）運営計画（事務部門）状況調査 及び 運営計画の構造調査（実践交流のページNo.25）

◆取り組み経過等

- ・事務職員の仕事の範囲は学校によって様々であるが、運営計画の記述を通して各校の実態を把握し、仕事の範囲に関する課題を読み取る。
- ・特に、学校財政財務や情報に係わる事務職員の仕事がどのように記述されているかに注目する。

◆見えてきた課題

- ・運営計画は学校の状況に応じて作成されるものではあるとしても、これまでの全道的・管内的研究とりくみの経過からすれば、「学校財政財務活動」などの言葉はきちんと表記されるべきと考える。（2010 年段階では「学校間連携への参加」に関する記述は全校で完了）
- ・「学校間連携への参加」に関する記述は全校で完了。

（3）市内学校職員配置状況調査（HP のトップページ）

◆取り組み経過

- ・2010 年度から連携会議ホームページで、児童生徒数、職員数、配当予算等の市内基礎データを公表。
- ・市配当予算関係については、学校毎にその学校の分だけが内示される方式なため、この調査で互いの学校の状況を確認する。
- ・市教委に対して、情報公開の重要性をアピールする意味もあり。・公表項目を少しずつ増やして現在に至る。

◆見えてきた課題

- ・定数内・定数外にかかわらず、現場の教職員がどのような職名を持ちどのような目的で配置されているかは意外と把握されていない。
- ・「提言 4（2009 年）」で情報公開の重要性に言及。

（４）学校徴収金（保護者負担）調査

◆取り組み経過等

- ・連携会議設立の 07 年度にはじめて資料化され 2008 年度は中断、2009 年に再開して今日に至る。
- ・中学校の調査項目で教科毎の項目を設けるなどの工夫を加えながら現在に至る。
- ・石狩市だけで調査を行うのではなく、他の市町村と合同でこの調査を進めることが必要ではないかとの観点から、2012 年度の夏季研修会において、他市町村との合同でのとりくみについて論議。
- ・2013 年度はより保護者負担軽減を図るべく、徴収金額と併せて「学校徴収金実態調査」を行い、事務職員の関わり方の実態を調査。ました。一部に「全くノータッチ」の実態も判明。

◆見えてきた課題

- ・「徴収金をどう減らすか」とともに、「同じ教科の学校による徴収額に違い」について教育課程や教科運営の点からも考える必要があると結論。・予算要望書において「教材費等の保護者負担の公費化」を要望事項の中心に据えてとりくんで来たことで、各学校の保護者負担の実態が次第に鮮明になってきた。
- ・公費化に向けた各学校のとりくみも次第に論議は活発化してきている。

（５）各種補助金調査（資料HP白書提言のページNo.12）

◆取り組み経過等

- ・石狩市の「学校奨励プログラム補助金」執行にあたっては、市配当予算の計画とすり合わせるなどして、効率的な執行を心掛ける必要があるが、現状各学校において補助金執行担当者と、市経理執行担当者間の調整・協議が不足していることが想定されたため、調査を実施。

◆見えてきた課題

- ・多くの学校で校内再配分予算案に補助金とのかかわりが触れられていない。
- ・両会計の関係さらには、それ以外の補助金と市配当予算との関わりについても調査の必要有り。
- ・補助金がどのように使われているのか、配当予算や学校徴収金と一体的に、校内全体で確認していく必要あり。
- ・事務職員が担当していない場合でも配当予算との調整を行うなどの関わりについて取り組みを進めていく必要あり。

（６）未納金に関する調査（資料HP会員のページNo.2 及び 16）

◆取り組み経過

- ・学校徴収金の未納問題は、大きな問題であるとともにデリケートな問題でもある。
- ・実態交流の必要生を感じ調査実施。を行いました。各学校のとりくみ状況は前年と大きく変わってはいませんが、未納率や未納額の率が減少した学校もあり、市全体としては、未納問題は全ての学校に共通した問題ではありません。しかし、

◆見えてきた課題

- ・未納が存在しない学校もあるが、依然として未納が減らない学校がある。
- ・未納金の処理方法も明確になっていない場合がある。
- ・未納金の処理方法など学校内の金銭処理の状況や監査体制、決算報告などの情報公開がどうなっているのかも調べていく必要がある。

（７）市内の就学援助認定状況（資料HP白書提言のページNo.9、会員のページNo.14）

- ・石狩市では 2005 年 4 月から現在の認定基準が採用されている。
- ・見直しの理由について市は「全児童生徒の 25% を超え、他市の状況と比較するとかなり高い率

となっています。現在の認定基準では、経済的に比較的余裕があると考えられる世帯も認定されるなど、制度の趣旨に沿っていないことから見直しをするものです。」（一部抜粋）と説明。

- ・今調査では既に認定児童生徒は 28% に到達。

◆見えてきた課題

- ・特別支援教育奨励費については、市教委の事務が学校を経由しておらず、周知が十分でない面があることが判明。「日刊連携会議No.86」で注意喚起。
- ・現在、就学援助費の校長委任払いに向けて、市教委と市事協が協議中。

（8）図書費の執行状況調査（資料HP白書提言のページNo.14）

◆取り組み経過

- ・石狩市では図書費は2週間に1度10万円未満までしか執行できない仕組みであった。
- ・課題解決のため2010年に調査実施。

◆見えてきた課題

- ・市の財務規則とのかかわりや実際の図書購入のプロセスなど多くの課題が判明。
- ・2013年度、図書費の管轄が市民図書館に移行となり、同秋に「2週間ルール」を1週間に短縮
- ・図書費追加配分についての執行決議書作成について市民図書館に移行となる。
- ・2015年9月現在、児童生徒図書購入に関する一切の事務処理が市民図書館に移管されている。

（9）職業体験学習交通費・引率旅費調査（資料HP白書提言のページNo.15）

◆取り組み経過

- ・管内の主要市において、職業体験学習の交通費にかかわる家庭負担については、公費による手当てが可能であることから石狩の実態把握による改善に着手。
- ・始めに各中学校の実態を調査し、その結果を2010年度の「提言」としてまとめる。

◆見えてきた課題

- ・石狩市は管内他市と比較して、スクールバス利用という現物支給はあるものの一部の学校にとどまっている。
- ・スクールバス利用のない学校においては個人負担に対する補助的給付を行うための財源が位置づいていない。
- ・石狩市においては、職業体験学習の受け入れ事業所情報を市教委が作成するなど、積極的な条件整備をはかっていると評価できる。
- ・しかし受け入れ事業所によっては札幌市中央区や小樽市など遠距離の場合もあることから、個人負担に対する措置について検討する必要がある。
- ・当面学校奨励プログラム補助金の運用によって手当てすることも検討。

（9）修学旅行経費調査（資料HP白書提言のページNo.18）

◆取り組み経過

- ・予算要望資料作成に関する議論の中で「引率職員の自己負担について資料化しては」との意見。
- ・2011年に最初の調査を行い、2013年夏季研で再調査と検討。

◆見えてきた課題

- ・「自己負担」の定義が曖昧であること（日当の範囲内と思われる経費も多い）。
- ・全くの自己負担を強いられる学校はそう多くない。
- ・自己負担を発生させるような計画をしてしまうことの問題点。
- ・道立学校（拝観料等）なども検討し、今後「提言」も視野に入れて検討。
- ・家庭の負担の軽減も含めた観点で調査を充実させ、実施学年に活用してもらおう方法を検討。

(10) 備品台帳システムの使用状況調査（資料HP 白書提言のページNo. 8）

・2013 年度冬にシステムが完成し、平成 26 年 1 月 24 日付石教総第 421 号「学校備品の管理について」が教委より発出されたことにより完成となったため詳細について HP で確認ください。

(11) 事務職員の仕事調査

◆取り組み経過等

・2012 年冬季研修で加配申請書に記載のある業務（7 項目含む）内容の「事務職員の仕事調査」を行い、各校でとりくまれている業務を一覧にし、交流を図った。

◆成果と課題

・調査の結果「市町村費の執行及び管理に関する業務」が「関わり度合いの強さ」も「事務職員が中心となって行った方がよい業務」も一番で、「学校財政財務活動」への意識の高さが確認できた。

<資料 2> 調査活動の分析にもとづく提言

◆取り組み経過（これまでの提言 表題のみ）

・2009～2010 年度までの提言 10 項目は、すべて対市教委を想定。
 ・2011 年度は学校や自分たちに向けた提言も。具体的には、「提言 11 学校予算の提案について」と「提言 12 修学旅行に係る就学援助費の請求について」そして「提言 13 事務部門の学校評価（内部評価）」の 3 項目。

| | |
|-------------------------|---|
| 提言 1 コピー機・輪転機の更新について | ①コピー機・輪転機の更新に際しては、学校との事前協議に基づき進められること。 ②リース料・リース期間、保守点検などの契約内容と更新に関する基本方針が各学校に示されること。 |
| 提言 2 校舎カーテンクリーニングについて | ①校舎カーテンクリーニング実施のため、役務費の学校配分を圧縮し、市教委の一括契約による校舎ローテーション方式とすること。 |
| 提言 3 校舎ワックスがけについて | ①体育館のワックスがけの実施方法について、検討・協議の場を設けること。 |
| 提言 4 学校配分予算等の通知方法について | ①学校配分予算は、市内各校の状況がわかるよう一覧表方式での通知であること。 ②各学校補助金、備品購入予算、特別支援学級用予算配分についても事務担当者説明会を行い、一覧表方式での通知であること。 |
| 提言 5 コンピューターソフト教材購入について | ①学校配分予算のコンピューターソフト教材購入については、備品購入計画に組み込むこととし、少額ソフトについては、配分消耗品での対応とすること。 |
| 提言 6 執行決議書の改善について | ①市経理執行決議書の校長決裁日と執行日は同日でも可とするよう規則を改正すること。 |
| 提言 7 市教委発公文書の学校配付方法について | ①校務用 LAN の配備を契機とした文書処理の IT 化について検討する場を設置すること。 |
| 提言 8 図書費の執 | ①児童生徒用図書の購入にあたって、10 万円を超える発注が可能となるよ |

| | |
|---------------------------|---|
| 行について | う規則改正やその他の方法について検討すること。 |
| 提言 9 児童生徒名前ゴム印の公費化について | ①児童生徒名前ゴム印を学校配分予算以外の公費で購入できるよう予算措置すること。 |
| 提言 10 職業体験学習の生徒旅費の措置について | ①職業体験学習のため、生徒が交通機関等を利用する場合の旅費について措置すること。 ②当面、プログラム奨励補助金から学校の実情に応じて執行できるよう関係規則を整備すること。 |
| 提言 11 学校予算の提案について | ①学校予算の提案に際しては、数字のみの提案とせず、使途の説明・留意事項などが全教職員に分かりやすく共通理解を図ることが出来る提案となるよう工夫・改善を行うこと。 |
| 提言 12 修学旅行に係る就学援助費の申請について | ①修学旅行に係る就学援助費の請求に当たっては、経費の算定を厳密に行い請求額に過不足が発生しないような手段を講じること。 ②各学校においては、修学旅行経費の算定を厳密に行い、事後速やかな決算報告が可能となる体制を整えること。 |
| 提言 13 事務部門の学校評価（内部評価）について | ①学校評価における事務部門の内部評価については、学校財政財務活動のとりくみを重点として、学校づくりや子どもを中心とした視点を充実させたものとする。 |
| 提言 14 教材備品購入費の執行について | ①各学校は、教示備品購入計画の策定に関わって、職員の要望を十分に吸い上げるため、計画に必要な情報提供を積極的に行うなど、丁寧な提案と調整を工夫、実践すること。 ②連携会議は、定期的に各学校の教材備品購入計画に関わる実践を交流するなど、各校のとりくみをサポートすること。 ③教育委員会は、緊急に教材備品が必要になった場合の対応に関わり、考え方や要望の方法について、口頭説明以外の明示の方法を検討すること。 |
| 提言 15 学校図書ブックカバー取り付けについて | ①学校図書（児童用図書）の納入に関わり、ブックカバー取り付け料を込みとした購入が可能となるよう、運用を改善すること。 ②上記事項実現の条件整備として、学校図書の購入については、市民図書が学校要望を一括処理し、各学校同条件での納品となるよう、運用等を改善すること。 |
| 提言 16 学校配分予算の調整について | ①学校配分予算の調整について、当分の間、学校配分予算の効率的執行のため実施するよう教育委員会として検討すること。 ②各学校は、学校配分予算の調整について適切に実施できるよう、学校財政に関する調査・分析活動を充実させること。 |

※2013年度は、時間経過に伴う修正を行いました。（提言 1、4、6、9）

◆成果と課題

- ・提言がとりくみに強く結びついた例として、名前ゴム印の公費化がある。
- ・提言を活用して、要望書の作成など具体的要望活動にどう取り組むか。ただし、連携会議は要望活動の当事者とはならない。

<資料 3> 予算要望について

◆取り組み経過

- ・連携会議の予算要望活動は、石狩市教育振興会（石教振）事務部会の委託を受けて、石狩市予算

要望委員会に提出する「学校配分予算に関する要望」の具体的資料づくり。

- ・2009 年度においては、①「保護者負担軽減のための増額要望」、②「新指導要領への移行に伴う増額要望」、③「役務費に係る要望」の三つを要望の要点と設定して意見集約。
- ・2010 年度は「保護者負担軽減のための増額要望」を理科実習費に絞り込むことにより、一定程度の資料化。
- ・予算要望活動の一環として、「教育財政に関する調査」を実施。市内各校の教職員から施設設備の状況や、学校財政に関する意見を徴して、予算要望活動の参考とする。
- ・2011 年度は、前年度のとりにくみを踏襲しつつ、内容を精査してとりにくみ。「学校財政に関する調査については」2 年目も資料化して配付。
- ・2012 年度は同じ内容が 3 年続いたこともあり、各学校に若干のマネリ感が見られ、作業が滞る事態も発生。
- ・2013 年度は前年の反省を受け、3 年経過した教職員向けの「教育財政に関する調査」を終了し、新たな項目（旅行的行事に関わる教職員の負担軽減調査）を設置。
- ・2014 年度は、初の試みとして、学校配分予算全般について「現在のあり方」「執行上課題を有していること」「改善に向けた方法」等について、各人が自由に記述する項目を取り入る。
- ・また、要望事項を網羅するのか、絞るのかで大きな議論となる。市当局に学校配分予算の増額に関する計画がないことが分かり、できる限り学校の現状を詳細にアピールする方向で確認。
- ・2015 年度は前年を踏襲しつつ、学校予算に対する各校の自由な意見記述から共通要求事項を探るとりにくみを行ったが、意見内容をさらに検討し「提言」を作成してから次年度の予算要望に生かすこととする。

◆成果と課題

- ・2014 年度の議論を経て、「学校配当予算の調整」に至る大きな変化。（詳細はレポート本文にて）
- ・小学校で使用する植物の種について市教委として地域の協力を得て用意することへの検討もあるという情報あり。要望書に目を通してもらえるようになったことを実感。
- ・多くの学校から要望のある「節内流用」については、「流用」という言葉を使わない方法がないか検討。

<資料 4> 実践交流について

◆取り組み経過

- ・個々の実践について、市事務職員協議会主催の夏季、冬季研修会で交流。
- ・ホームページを活用した個々のとりにくみ紹介での交流。
- ・日々の実践紹介や「領域実践交流シート」に伴う意見交流を集中的に行い、個々の実践に活かす。
- ・夏季冬季研では管内他市町村からも参加あり、貴重な交流の場となる。

◆成果と課題

- ・個人実践交流については、市内を問わず、管内からも積極的な投稿を期待。